
気候影響・利用研究会 バイオクリマ研究会 共催シンポジウム
「気候変化と健康」

日時：2003年11月8日(土)

会場：立正大学大崎校舎

後援：日本気象学会気候変化研究部会

開催趣旨

過去100年間で地上気温が0.6℃上昇した。さらに、今世紀末までに約3℃の上昇が予測されている。IPCCは、温暖化モニタリング・影響評価・対策技術に関する第4次評価報告へ向けた研究レビューをスタートさせたが、このなかで、地球温暖化と健康の研究が重要な問題の一つになるだろう。このような背景のもとで、気候影響・利用研究会とバイオクリマ研究会の合同シンポジウムを開催し、最近の国際的な研究情勢および研究事例を紹介し、今後の研究方向について討議する。

プログラム

13:00-13:10 【開会挨拶】 林 陽生(気候影響・利用研究会会長)

13:10-13:40 「温暖化影響評価に利用可能な気候変化シナリオについて」

：西森基貴(農業環境技術研究所)

13:40-14:10 「医学気象予報の開発と実践の概要について」：宮下良治(国土環境株式会社)

14:10-14:40 「地球温暖化と節足動物媒介性ウイルス」

：伊藤美佳子・高崎智彦・新井智・小林睦生・倉根一郎(国立感染症研究所)

14:40-15:10 「地球温暖化と健康 - WHO等の国際情勢 - 」：兜真徳(国立環境研究所)

15:10-15:20 【休憩】

15:20-15:50 「温暖化による健康影響研究の現状」

：安藤満(富山国際大学)・山元昭二(国立環境研究所)

15:50-16:20 「病気の治療・回復と温度環境」：佐々木昭彦(福島県立医科大学)

16:20-16:50 「日本におけるバイオクリマ研究の現状」：稲葉裕(順天堂大学)

16:50-17:00 【閉会挨拶】 福岡義隆(バイオクリマ研究会代表幹事)

* 予稿集の残部ございます。ご希望の方は事務局まで。